

## 令和4年度総長賞受賞者一覧

被推薦者・団体名	推薦対象分野	推薦理由・受賞歴等
理学研究科生物科学専攻DC3回生  モリヤ ケンタ 守屋 健太	学業	気孔のないコケ植物ゼニゴケにおける気孔形成因子の役割を世界で初めて明らかにし、これまで考えられてきた植物の気孔の進化の仮説を覆す極めて重要な発見をした。
医学研究科人間健康科学系専攻DC3回生  ギョウ セン Niu Qian	学業	機械学習(ML)、自然言語処理(NLP)技術を活用した大規模なソーシャルメディア分析により、COVID-19パンデミック前後のワクチンとCOVID-19感染に関する公衆の意見・感情・検索行動を分析した。この成果はJournal of Medical Internet Researchなどに筆頭著者5報、共著3報の国際学術誌論文、2報の学会にて発表を行い、優れた研究成果を上げている。また本研究で用いた手法は学術誌だけでなく、広い分野で注目を集め、京都大学の学生では初めてのGoogle PhD Fellowshipを獲得した。
工学部物理工学科2回生  ヤマナカ シュン 山中 駿	課外	「天皇賜杯第91回」において、男子走高跳で優勝し、昨年の「第37回U20日本陸上競技選手権大会」において、男子走高跳で6位入賞を果たすなど、国内の主要大会にて数多くの好成績を収めた。
工学部地球工学科3回生  イワイ ハルコ 岩井 温子	課外	大学生女子の囲碁個人戦日本一を決める唯一の大会である、第58回全日本女子学生本因坊決定戦において優勝した。この大会で京都大学の学生が優勝したのは初めてである。
京都大学囲碁部  (代表)医学部医学科3回生 オトベ マサナリ 乙部 正成	課外	今年度の春期関西リーグ(大学対抗団体戦の関西予選)で優勝、秋期関西リーグにおいて準優勝し、その後11月26日に行われた立命館大学との代表決定戦に勝利した。その結果12月24日から26まで行われた第66回全日本大学囲碁選手権に関西代表として出場した。結果としては京都大学の優勝に終わり、1998年以来24年ぶりの全日本二連覇を達成した(決勝では東京大学に勝利)。
SHINOBI  (代表)工学研究科機械理工学専攻DC1回生 ミチカワ リョウヘイ 道川 稜平	課外	2022年7月13日～16日に開催されたRoboCup世界大会のレスキュー実機リーグで総合優勝した。ロボットデモやメディア対応にも積極的に取り組み、社会におけるレスキューロボットの認知度を高めた。

学業 2件  
課外活動 4件  
合計 6件